

闘う成長戦略で日本再生を ～増税の前にやるべきこと～

2012年度FUJITSUファミリ会 春季大会 記念講演

元・経済産業省官僚 **古賀 茂明 氏**

こがしげあき / 1955年長崎県生まれ。東京大学法学部卒業後、通商産業省（現・経済産業省）入省。大臣官房会計課法令審査委員、産業組織課長、OECDプリンシパル・アドミニストレーター、産業再生機構執行役員、経済産業政策課長、中小企業庁経営支援部長などを歴任。2008年国家公務員制度改革推進本部事務局審議官に就任。急進的な改革を次々と提議し、「改革派の旗手」として有名に。2009年末の審議官退任後も公益を超えた政策を発信。公務員制度改革の必要性を訴え続けたためか、2010年秋に参議院予算委員会で官房長官から「喝喝」を受ける。1年以上にわたり大臣官房付に留め置かれ、2011年9月26日付けで辞職。『日本中枢の崩壊』『官僚の責任』『官僚を国民のために働かせる法』など著書多数。



経済の再生に必要なものとは？

「社会保障と税の一体改革」の議論が国会で始まりました。「一体改革」という言葉から、全体を議論しているように思われますが、実はそうではないということを、まず、指摘しておきたいと思います。国の立場からみた経済は、個人や企業が一生懸命働いてモノを生産し、あるいはサービスを提供してお金を稼ぐところから始まります。そして、稼いだお金から税金や保険料を徴収し、それをどのように分配するかという段階に行くわけです。しかし、現在の議論は、税金や保険料をいかに徴収するか、それを社会保障にどう使うかということであって、「どうやってお金を稼ぐか」「社会保障以外にどう使うか」など他の部分については全く議論が及んでいません。一体改革ではなく、超部分改革だということを正しく認識していく必要があります。

そして、国民に増税への理解を得るために、「身を切る改革を進めます」ということが言われ始めました。これは国家公務員制度などの改革で、とても重要なことです。しかし、ここでも「稼ぐ」ことには手つかずなので、経済全体をどうやって再生していくのかを考えたときには、答えが出ないのではないかと思います。

それでは、経済をよくするために何が必要かと言うと、やはり質のよい雇用を増やすしかありません。そして、よい仕事を創るために必要なのは、成長するための改革です。どうしたら成長できるのか、そこには「成長戦略」がなくてはならないのです。



成長戦略に欠かせない3分野

成長戦略は、根本的な課題にメスを入れて、今までと違った方向性を打ち出して戦略を立て、実施後5年程度で見直しをかけるというのが普通の国です。しかし、日本では、成長戦略が毎年出ています。これは、総理大臣が毎年変わるからですね。その中で、日本がこれから期待をかける成長分野として、10年ぐらい前から必ず取り上げられるものが、「農業」「医療」「エネルギー」の3分野

です。実は、この3分野には、いずれも、普通の企業が自由に参入できないという共通点があります。資本主義、自由主義の日本で、それも成長が期待されている分野において、本当に不思議なことです。

例えば農業。日本は農地が余っているにも関わらず、国の減反政策により農作物の生産が制限されています。大企業が零細農家から借りたり買ったりした土地を集約し、自ら農薬や肥料、機械を調達し、そこで生産したものを自分たちの販路で売るという大規模農場の経営を始めたら、農協の仕事がなくなってしまいます。ですから、農業の競争力を上げるための戦略として、補助金を配ることになるのです。

医療の世界も同様で、日本では企業による病院経営は認められていません。企業経営で効率化が進み、サービスが多様化して、質のよい医療サービスが提供されると、そういうことができない医者たちが困るのです。また、今は聖域になっている混合診療が解禁されれば、新しいビジネスも生まれ、よい産業に育つと思いますが、今はできません。

そして、3つ目はエネルギー分野です。電力会社は株式会社ですが、問題は、一般の企業が電力事業に参入することがほとんど不可能だということです。産業用電力の販売は、かなり自由化されたと言われていますが、電力事業全体の中で大手電力会社以外の会社が売っている電力量などわずかなもので、ほとんど競争力はありません。発電会社と送電会社が一体となっていることが大きな理由です。例えば、新しい発電所が必要になったとき、主要電力会社は自社で発電所を作り、その発電所に向けて送電線を引きます。他の会社が発電所を作っても、送電線を使うための料金が非常に高いなど、外部の会社には不利な条件が多く、結局、エネルギーの分野に新しい企業が自由に参入することを難しくしているのです。

自民党は、農協改革や医療の改革などをすることができませんでした。農協や医師会、電気事業連合会などは、政権の基盤を作ってくれた人たちですから、そのつながりを断ち切ることが難しかったのです。しかし20年間、成長分野と言われるものが全く

伸びていないことに、国民は気づいたのです。そこで、農協や医師会、電気事業連合会と関係がないと思われた民主党に政権を託したわけです。



「しがらみ」を切る政策を

クリーンな政党と思われていた民主党も、いざ政権をとってみると、そうではありませんでした。正確には、政権野党だったためにクリーンにみえたということです。民主党が政権をとった当初は、「官僚主導をやめます」「これからどんどん改革します」というようなことを言ったので、思い切った改革をやってくれるという期待感がありました。しかし、政権に就いてみたら、結局、農協や医師会などからの応援も受けることになり、強いところと闘えなくなりました。さらに、民主党はもともと労働組合に支えられている議員が非常に多い政党です。連合の中には民間企業の組合の他、公務員の組合も入っていますので、公務員改革が非常にやりにくい仕組みにもなっています。

このようなことを考えると、民主党は自民党よりも、さらに「しがらみ」の多い政党なのではないかということが非常に懸念されます。ですから、「身を切る改革」の「身」の前に3文字つけて、「しがらみ」としていただきたいと思っています。日本が本気で成長のためのフィールドを広げていくためには、「しがらみを切る改革」が必要なのです。

したがって、日本再生のために、これからの政治に求められることは、「闘う」という姿勢です。これを私は、「闘う成長戦略」と呼んでいます。成長するために何が重要かということが論点になったときには、「農協改革をやる」「株式会社による病院経営や混合診療の解禁」といったアジェンダを出せる政党があるかどうか、マニフェストに掲げられる政党が出てくるかどうかを鍵だと思います。

このような中、成長のための改革の一つの鍵を握っているのが、例えば、今話題になっている「維新の会」です。「維新の会」では、「維新八策」と呼ばれるマニフェストにあたるものを作っていますが、その基本コンセプトに、「闘う成長戦略」も入ってくるのではないかと考えております。私が維新の会の議論に参加している中で強く感じるのは、政策としては基本的な哲学がしっかりしているということです。国政進出についてはまだよくわかりませんが、今人気が上がっているということは、信頼を得られなくなれば人気落ちるときのスピードも速いということで、慎重に政策を進めていると思います。



官僚の改革なくして日本の再生はない

私のように、政治家や政党の政策立案をサポートする人間にとって、希望を託し、応援したくなるような政治家がいなくなっ

てきました。このような状況で官僚たちは、何をしているのでしょうか。

昔は、官僚が日本を支えているとか、旧・通商産業省が日本を引っ張っているなどと言われた時代がありました。今でも長老の国会議員やベテランの新聞記者の中には、官僚は優秀で真面目で公正な人々だと思っている方が、たくさんいらっしゃいます。ところが、そういったイメージから、かなりかけ離れてきているのが現実です。

日本がこれだけ厳しい状況にある中で、民間企業は昨日より今日、今日より明日と、ほんの少しでもよい知恵を出そうと必死になっていますが、官僚の世界ではそういう発想がほとんどありません。日本の企業は世界と競争し、一長一短はあると思いますが、世界水準でトップレベルにある企業も数多くあります。それでは、日本の官僚制度はどのぐらいのレベルなのでしょうか。一昔前には、アメリカの商務省の人が日本出張の際に産業政策や経済政策の話聞きに来たり、たくさんの中国や韓国の役人が日本の政治を学びに来たりしたものでした。しかし今、海外から日本に政策の勉強をしに来る役人はおりません。日本は国際レベルから相当な後れをとっています。驚くべき凋落ぶりです。

一方で、自分たちの利益を守ることに限っては、いくらでも知恵が出るのも官僚の体質です。私は、官僚というものは青雲の志で国のために頑張ろうと思って入ってくるのだと思っておりましたが、もともと普通の人だったのです。青雲の志を持った人もいられませんが、それは民間企業でも同じことです。特に優れているわけでもなければ、特に悪いわけでもない。そのような普通の人々なのだという前提に立てば、きちんとした仕組みで管理しなければ、間違った方向に行ってしまいます。公務員は立派な人々だという前提を、まず考え直さなければいけません。普通の人を上手に管理し、国民のためにきちんと働いていただく。少なくとも、ある程度は知識のある、頭のよい人々ですから、その人たちが本気になって国のために働けば、大きな差が出てくるはずで、日本再生のためには、官僚の体質も大きく改革していかなければならないと思います。

